



いながき

『市長選挙』に関連して!

4選出馬に対し
これまでの総括と、目指すまちづくりは?



いとう

先の9月議会に於いて、今年2月20日実施予定の『市長選挙』への出馬を表明した戸張市長に対し、これまでの『総括』と今後の『まちづくり』への考え方・思いについて、12月議会一般質問で確認。また選挙戦にあたっては、分かりやすい公約の提示と公正な選挙を行うよう要望。

22年度一般会計補正予算は、2億8,788万6千円を追加、歳入歳出総額を188億1,704万7千円に。扶助費の生活保護事業に2億円を計上した他、土木費の道路維持補修事業や農地関連整備など。

3期12年の総括。多選の弊害が問われる中、4選を目指す理由は何か どんなまちづくりを目指すのか

【答弁】 市長就任以来、「市民が主役」のまちづくりを進めてきた。特にこの4年間は、行財政改革の推進、都市計画税の導入による財源確保と有効活用に努めた。これにより、中央土地区画内の第1調整池をはじめ都市基盤整備が進んだ。また、次世代を育む政策として、学校の耐震化・大規模改修の実施や子育て支援として、保育所の整備、医療費の負担軽減などを推進した。

一方、県の指導で先送りとなった東埼玉テクノポリス拡張や駅南整備が今後の課題となった。

第5次総合振興計画策定に当たっては、第4次総振の検証を行うとともに、社会潮流や行政課題を踏まえて「住み良さ日本1を目指したい。」市民が感じる、「住み良さ」「暮らしやすさ」が大切だと考える。人口減少社会の中、次世代を育み、吉川が活気に溢れた安全で快適な町であり続けるよう、市民と共に「協働」のまちづくりを推進して行きたい。

長期の権力は腐敗する!腐敗・マンネリ化をどう克服するのか 区長制度から自治会制度移行の評価は

【答弁】 「初心に帰り気を引き締め、謙虚さを持って事にあたる」ことだと考えている。

三役や幹部などの人事刷新については、今後研究していくが「初心忘るべからず」の心が大切。

区長制度から自治会制度へ移行して10年が経過。地域の防犯活動や福祉活動の充実が図られ、安全・安心、支え合うまちづくりが推進された。今後も地域コミュニティの醸成を支援する。

自治会長や受注会社社長は、選挙活動を自粛していただきたい!

自治会は補助金の対象団体であり、地域の全住民が加入対象となっている。特定候補の支援は、「協働」のまちづくりを進める上でも好ましいことではない。市が発注する工事等の関係事業者が選挙活動することも、発注事業と受注者との関係に疑義を生じさせることとなり、慎むべきではないか。

市長の後援会には今回、現職の自治会長や受注会社の社長は含まれていないと受け止めてよい。その是非を含め伺いたい。

また候補者は、公約(マニフェスト)について『公開討論会』で積極的に議論するよう提言をしたい。

【答弁】 個人の選挙活動については、公職選挙法に抵触しないことが大切だと思う。

いながき・いとうの

12月議会報告

1月10日(月)午前10時30分～

おあしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町782番地1C-1101 TEL 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117

Eメール itoh72@nifty.com

* 市民改革クラブ ホームページ開設 *

<http://www.geocities.jp/kaikakuclub>

どんな「まちづくり」 を目指すのか いながき 茂行

市長4期目の出馬表明を受け、これからの「まちづくり」について一般質問で取り上げました。具体的課題である生活保護世帯の急増や保育所の待機児童問題、医療・介護保険制度、産業振興、ごみの減量・資源化、地域主権への対応などについて提案を交え、見解と決意を伺いました。

4・5才児を除き、 110人以上が待機

保育所の待機児童問題の根本的解決は、育児休業制度や育児休業給付の拡大を国として図ることが必要。また、幼保一体化やワークライフバランスへの取組みも重要です。

現実的対応としては、認可・認可外を含めた保育園の設置を積極的に支援すること。特に、家庭保育室や保育ママを活用し拡大するよう提案。これに対し、『新たな保育所の必要性は理解しており、引き続き国の制

度を活用し早期創設を目指す』と答弁。

「地域包括ケアシステム」の構築を

将来にわたり持続可能な医療・介護保険制度とするための最大の課題は「地域包括ケアシステム」の構築と「予防」の徹底。医療と介護、生活支援、住まい、予防が日常生活圏域の中で連携・協力できるネットワークづくりが必要不可欠であり、その推進を行うよう求めた。

『増大する医療費・介護給付費に対し、疾病の早期発見、早期治療が重要と考え受診率向上に努める。また、高齢者が介護の必要がない状態で出来るだけ元気に生活できることが大切と考え、今後も介護予防への理解と参加を呼びかけていく。』

市では、「医療と介護の連携の会」を発足し、それぞれの役割分担や地域のネットワーク作りを含め、検討している。』

ごみの減量・資源化を

雑紙の分別・資源化を進めれ

ば、第一工場で焼却する可燃ごみ100トンが削減でき、結果、第二工場は作らずに済む。また、戸田市で推進している「花いっぱいプロジェクト」を、吉川でも実施するよう提案。

家庭から出る生ごみを花の苗と交換。生ごみはたい肥化して花の苗を作る。苗の生産には障がい者が活躍。町の美化とごみ減量・資源化、雇用確保も。一石三鳥の取り組みを。

ナンシン跡地に大型店、 農業・商業と連携を

栄町ナンシン跡地に出店を計画している、大規模小売店舗（コナン）商事・ライフ出店にあたっては、店舗との連携を図り、農業や商業の活性化に繋げるよう要請。市の支援を求めた。

12月6日、出店計画に関する説明会が開催。騒音や交通等近隣の環境対策を中心に話し合われた。今後、地域の環境保全対策とともに、商業・農業との連携・活用についても、提言してまいります。



12月議会は12月2日から16日まで開催。13議案を全て可決。

主な議案は●市条例の一部改正（こども医療費支給・地区計画区域内における建築物の制限・市民プ
●工事請負契約の変更契約（中央
土地地区画内調整池公園）●公平
員会委員の選任（齊藤正雄氏）●22
年度補正予算について等
こども医療費支給（通院に係る
医療費支給対象を小学生・中学生
まで拡大）と市道の路線認定及び
廃止（伊藤）、工事請負契約の変更
契約（稲垣）を質疑

一般会計補正予算

歳入歳出に2億8千8百万を追
加。主な歳出は、扶助費の生活保
護事業に2億4千50万円の他、
土木費、農林水産費など。
減額となったのは、11月臨時議
会で承認された職員・三役の給与
末手当（人事院勧告に準拠）及び
議員報酬の削減によるもの。

委員会質疑

総務水道委員会（稲垣）、文教福祉
委員会、（伊藤）が補正予算及び議
案に関連し、確認、指摘、要望を交
えて質問。

一般質問

①『まちづくりの考え方』について
【政策・課題】総合振興計画と行
財政改革、地域主権、生活保護
世帯、子育て支援、医療・介護保
険、ごみ減量・資源化、産業振興

①三期目の総括と四選の目標②
『権限10年』の戒め。区長制度
から自治会制度への評価③イン
フルエンザ注射④なまずの里マ
ラソン（定員制）⑤街路樹の整備
について（伊藤）



なまずマラソン

PRのチャンスに

いとう 正勝

なまずの里マラソンは年ごとに隆盛。去年は7,600人を超えた。東京マラソンには及ばないが、このところ20%前後の伸び率。県東部では一番の人気。(三郷・2月、4017人。越谷・元旦、1,600人)

発想を新に盛り上げる。吉川をPRするチャンスにと考えるが、主催の吉川市体協は今年の16回大会から目玉のハーフ、10キロ、親子マラソンを対象に先着順で定員制の枠を設けることになった。この背景について説明をと求めました。

今年から定員制 安全を優先

市長は自ら5キロの部に参加の実感を踏まえ、「道路が狭く、ランナーがひしめいている。特に加藤、平沼線は片側規制で限界に来ているのではないか」との感想。

担当の教育長は▽マラソンのコースが狭く安全対策をのぞむ声が年ごとに強くなっている。▽参加者は20年(5,800)、21年(6,400)。22年は7,689人に達した。

(このうち吉川市民は1,689人)

今回は8千人をこえることが見込まれるため、吉川警察署などとも協議し収容能力をこえるハーフマラソン等3種目について先着での「定員制」導入に踏み切った。ハーフの前回参加者は2,899人、今回は2千5百人の枠となります。

吉川、三郷、越谷 共同開催の検討を

なまずの里マラソンは吉川の良さを知ってもらおうビッグイベント。東京マラソン(2月)は定員3万2千人。30万人以上が応募。

警視庁は交通渋滞や安全面から、参加人数、コース道路、占有の時間帯についてきびしく注文したが知事は譲らず、メインストリートの全面を7時間以上占有して開き、定着している。「主役は私」と42キロの完走者が96%を超え、この東京方式がいまの走るブームに灯をつけたと言われています。

▽新駅開業5周年記念大会▽34号線(さくら通り、22m)全線開通など節目に合わせ、新たなコース設定(新駅、レイクタウン、らぽーとを含めて)も考え、三郷、松伏、越谷などとの開催もする。

全国では大小1,600の大会が開かれている。少なくとも県内でNo.1の「マラソン」にすることを目指してはどうか。東京大会の協賛企業やチャリティ方式なども(今大会から1千人のチャリティ枠。10万円で参加OK)参考に検討してほしい。

この提案については、「フルマラソンは吉川ではコース設定が無理で難しい。共同開催についても交通規制やボランティアの確保、相手側の意向もあり多くの課題がある。今後研究してみたい。」との答弁。

予防注射、高いとの声

インフルエンザ。新型も加わり脅威。接種者数は11月末現在で去年の2倍近い12,347人。去年12月の2学期終了時は吉川だけでのべ91学級閉鎖。今年は2学級のみ。「予防注射の効果」。感謝の声の一方で注射代が高いとの声も。一回接種4,450円。(県内自治体では3,500円〜4,650円の料金)13歳未満の2回接種は計7,350円。市医師会との話し合いで診療費ベース(初診2,700円、ワクチン1200円接種料180円等)での料金設定をしたとのこと。市としては平準化求め、国が基準を決めるよう要望したい、と答弁。

金のなまず

12月22日。冬至。「金のなまず」は月光に映え、親子で飛び跳ねていた。▽この「なまず」

市政施行を前に、吉川観光のシンボルにと設置されたものだが、制作者の室瀬和美氏が「人間国宝」に認定されたことで、格段に輝きを増している。▽認定は2年前の秋。上条さなえさんが「人生は美しい」と長寿会での講演の中でそのことを紹介、私は不覚にもその時までその事実を知らなかった。▽新駅広場にもモニUMENT。12月議会にその選定委員の経費が計上されたことに関連して「金のなまず」にもふれ、もっと大事に、銘版をわかり易く目に付く場所に、もっともつとPRすべきと強調した。▽文化庁の専門調査官にもその後、人間国宝の意味、価値、そして「なまず」の評価についても取材。俗人の常であろうか、凡庸に見えていたこの「親子」、何度見ても味わい深く、夜目、遠目には幻想的に浮き上がるから不思議だ。▽年を経るにつれて名声を高め、話題を呼ぶのではないか。幸運を引き寄せる吉川の「守り神」であり続けてほしいと願っている。

▽元旦の冷氣にはねる金なまず



変わるー吉川ー動く



～周辺含め 新情報～

▽駅南（美南地区・きよみ野の1.5倍）はUR・都市再生機構の基盤整備事業がこの3月で終了。総事業費396億円。3月までに道路、公園など公共施設は吉川市へ全面移管に。この間、国の補助金などを得るため吉川市予算に計上された金額の総計は110億円余の規模。吉川市の実質負担額は下水関係など2億6千万円にとどまる。

▽駅南に新設の小学校用地は3月までに取得へ。中学校は23年度中にUR関係用地取得へ。

▽新駅西側（南）広場直近に、スーパー「とりせん」と「ケーズデンキ」が進出。準備中。

▽新駅広場にモニュメント。武操跡地の調整池公園など計7ヶ所に設置の方向。新駅建設費用の中から5千万円で。童話作家の上条さなえさん、金のなまずの室瀬和美さんら5人を委員に委嘱予定。

▽新駅自由通路には人間国宝（重要無形文化財蒔絵保持者）の室瀬和美氏のうるし壁画（縦1.5m横4.5m）の展示も内定。（予算1,500万円）

▽第1学校給食センター。25年をメドに移設、新築の方向。23年度中にもきよみ野北側（水田）に用地確保。民間の資金、経営能力、技術力を活用する「PFI」方式を採用予定。

▽水道水一安全で良質に。県営新三郷浄水場は総工費96億円をかけて県内で初めて高度浄水処理施設を設置。オゾンと生活活性炭による処理で、昨年4月より配水。吉川では南配水場の全域が対象。会野谷配水場は庄和浄水場からの従来の水との混合。東京は25年度までに全域を高度浄水に。埼玉はこの「新三郷」が先行し、今後は未定。【※12月20日。吉川市議会委員会で浦安の学校給食センター（PFI方式導入）と新三郷浄水場を視察・調査。】

▽子ども医療費の通院費無料化。中学生まで対象拡大、7月実施へ。必要経費は全額市税から、推定1億2千万円。

▽ミニバス新路線。吉川駅南口～中央病院～中央中横～ネオポリス北～おあしすのコース。12月6日から。

▽JR大宮駅へ直行3本。新幹線の新青森開業に合わせ、ダイヤ改正。吉川駅から朝、夕計3本が大宮まで直通（武蔵浦和経由）に。

▽ナンシン跡（栄町）に大規模小売店舗（ホームセンター等・8,500㎡）が進出。6月21日オープン予定。同敷地内に栄町ライフも移設の計画。

▽レイクタウン。イオングループのアウトレットなど新商業施設は5月連休前までにはオープン予定。2階建のべ21,500㎡。駅北側のマンション14階建て128戸は12月販売開始。三郷中央駅（つくば線）には25階の高層マンションなど3棟424戸基礎工事中。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。皆様にとって良い年となるようお祈り申し上げます。

一昨年の秋、国民の大きな期待を受け民主党政権がスタート。歴史的政権交代から16ヶ月。景気は回復せず、外交や防衛など益々混迷を深め、その上党内の「ごたごた」も。

野党もただ入れ替わっただけ。立場が変われば、言うこともやることも簡単に変わるのか。新聞やテレビもヒドイ。政治と金の問題一つとっても、なんら本質的な問題や解決策を論ぜず、ただ「小沢一郎」。

「情けない」とは確かだが、嘆いてばかりはいられない。

戦後64年、維新から140年。

近代国家をめざし、中央集権の下、歩んできた政治システムそのものが行き詰まり立ち行かなくなった結果の政権交代だった。

そう簡単に解決できるはずもない。非効率な縦割り・二重行政、安全保障や領土問題、全て先送り、ごまかしてきた結果のこと。

経済も同じ。新たな成長戦略が必要だが、日本の経営の良さ・強みを再確認し、活かすことではないだろうか。

いづれにしても、少し先を見て一喜一憂せず、元気で明るく過ごそうではありませんか。（いながき）